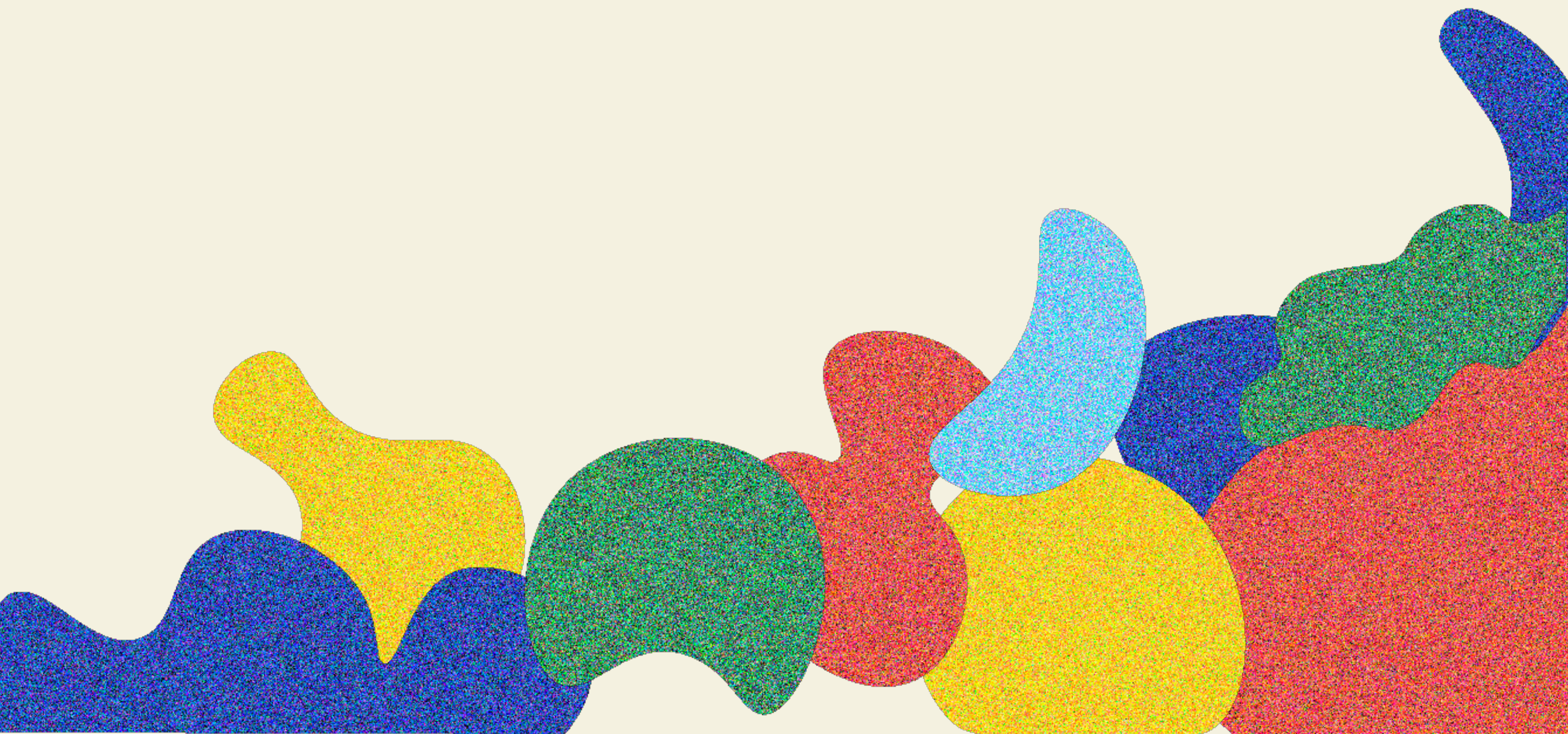


ステートメント

G7 広島サミットに向けて



\はじめに/

昨年から始まったロシアのウクライナへの侵攻は終息の様子を見せず、核兵器が使用される可能性も否定できない状況になっています。さらに、いわゆる核の小型化によって国家間戦争だけでなく、地域紛争で核兵器が使用される可能性も増大しています。こうした状況における核保有国は軍拡の動きを見せ、残り7分から始まった終末時計は、残り90秒となりました。日本国内では、防衛費をGDP比2%に増大させ、防衛力を抜本的に強化する方針が立てられました。

核なき世界の実現を目指す国としての役割は、防衛力を強めることなのでしょうか。

G7外相会合で「核兵器のない世界が目標」として認識されたように、核の脅威が増大している今、核廃絶への歩みを着実に進める必要があります。

ジェンダー・気候危機・グローバルヒバクシャの視点から

核兵器は、広島・長崎だけの問題でも、国のリーダーだけが取り扱うことができる

問題でもありません。確かに、広島・長崎は核兵器について考えやすい土地ではあります。

しかし、世界には約 12,700 の核兵器が存在し、今を生きている世界中の全ての人が核時代を
生きている当事者で、一度使われたら歯止めがきかない脅威と隣り合わせて生きています。

さらに、核兵器に関する決定には見えない力が働き、女性や開発途上国に住む人々、
核の被害を訴えにくい人々といったマイノリティの声が十分に組み込まれているとは言えません。

こぼれ落ちている声を拾い上げることができないのは、核に関する議論の中心に座り、圧倒的な
決定権を持つのは年長男性のリーダーだけであるという「当たり前」があります。わたしたちは

このあたり前をほぐして行く必要があります。社会を動かす運動は一つに絞られず、多様な

バックグラウンドから活かせるアプローチがあるはずです。4月30日に開催した

「KNOW NUKES FORUM」で、今の社会は課題に対する「見せかけの訴え」では終わらせられない

地点まで来ていることに気付きました。疑問を抱く環境の中で、強くあろうと背伸びせず、

周囲と協働して少しでも歩みを進めることに心を向けましょう。

私たちの社会は、私たちの「選択」次第で、変えることが出来るのです。

矮小化させないように、思考を続けましょう。

モヤモヤがうやむやにされないために

いま、世界中が連携を示して、核兵器廃絶のために歩みを進めています。

核兵器禁止条約の第2回締約国会議に向けて、例えば、核被害者・環境回復・国際信託基金

ワーキンググループなどが市民レベルで議論を重ねています。核の被害者が確実に救われ、

これ以上の苦しみを絶つために。そして世界の若者たちは声を上げ、問い続けています。

G7 広島サミット 2023 を前に、世界各国から広島に若者らが集い、核兵器のない世界を実現する

ための議論の場— ICAN ユースサミットが開かれました。そして KNOW NUKES TOKYO

(日本の若者) と Reverse the Trend (アメリカの核兵器若者団体) が、被爆地・長崎から、

日本の首都・東京から、声をあげる中継プログラムを用意しています。

さらには今年秋、実際の核兵器禁止条約の締約国会議と同時進行で、若者たちによる締約国会議

(YouthMSP) が行われます。KNOW NUKES TOKYO メンバーも、これらのチームに参加しています。

「KNOW NUKES FORUM」では本日、ここ対面会場に 110 名、オンライン会場では約 200 名が、

核兵器と世界について思考を巡らす時間を共にしました。

自分の思いと社会に発信することの距離がぐっと近くなった気がします。

私たちが求めること

- ・ 日本政府は第 2 回核兵器禁止条約締約国会議に、参加すること。
そして、メッセージのみに留まらずユース世代を派遣すること。
- ・ 各国の代表が G7 で得たこと（被爆の実相や核の影響等）を持ち帰って
共有する場を設けること
- ・ 属性を理由に声を上げづらい、この環境を改善すること
- ・ 全ての問題の当事者へのリスペクトを忘れないこと

あなたに今、考えてほしい。

モヤモヤが、うやむやにされないように。

2023 年 4 月 30 日
KNOW NUKES FORUM

編集：KNOW NUKES TOKYO
山口雪乃、倉本芽美ほか